

# NSG

GROUP





**NSG グループ**  
**2019年3月期第3四半期決算報告**  
(2018年4月1日～ 2018年12月31日)

日本板硝子株式会社  
2019年1月31日

**諸岡 賢一**

代表執行役副社長兼CFO

**クレメンス・ミラー**

代表執行役副社長兼COO

**イアン・スミス**

執行役員 グループファイナンス担当ディレクター

## 目次

1. 2019年3月期第3四半期 決算概要
2. 2019年3月期第3四半期 事業状況
3. 2019年3月期 通期業績予想の見直し
4. まとめ

4ページは、本日の説明内容となります。

## 2019年3月期第3四半期 決算ハイライト



売上高	<b>4,595億円</b> (前期比 +3%)	Q3に入り欧州自動車用ガラス市場が急減速したものの、総じて安定的に推移した市場環境を反映
無形資産償却前 営業利益	<b>272億円</b> (前期比 △1%)	エネルギー関連コスト上昇や南米の通貨安等の影響を受け利益は前期並み
税引前利益	<b>171億円</b> (前期比 +22%)	金融費用（純額）削減およびQ2に計上したセブラセ社の売上税返還による持分法投資損益改善等により増益
法人所得税	<b>△57億円</b>	前期(△144億円)は米国税制改正に伴う一過性所得税計上を含む
親会社所有者に 帰属する当期利益	<b>105億円</b>	前期比大幅改善
フリー・キャッシュ・フロー	<b>△183億円</b>	運転資本増加等の影響を受けるも年度末に向けて改善見込み

### Q3の欧州自動車市場の減速を除けば市場環境は安定

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

5

5ページをご覧ください。2019年3月期第3四半期のハイライトです。

売上高は、前年比3%増の4,595億円となりました。為替換算の影響を除くと、6%の増収です。

これは、第3四半期に入り欧州の自動車用ガラス市場が急減速したものの、多くの地域・事業において市場が安定的に推移したためです。

無形資産償却前営業利益は、エネルギー関連コストの上昇や南米の通貨安に加え、欧州自動車用ガラス市場の急減速の影響を受け、前年並みの272億円の着地となりました。

税引前利益は、金融費用の削減効果や、ブラジルのセブラセ社の業績好調に加え、第2四半期には同社にて売上税の返還による収益を計上したことにより、前期比大幅に改善し、171億円となりました。

法人所得税は、前年は米国の法人税率の変更を受けて一時的な税金費用を計上しましたが、当年はそれがなくなり、前年から大きく減少しました。

これらを踏まえ親会社の所有者に帰属する当期利益は、前年から122億円増の105億円となりました。

フリー・キャッシュ・フローは、運転資本の季節変動等により183億円のマイナスとなりましたが、年度末に向け例年通りキャッシュを創出により、改善することを見込んでいます。

## 連結損益計算書



(億円)	2018年3月期 4月-12月期 *1	2019年3月期 4月-12月期
売上高	4,453	4,595
無形資産償却前営業利益	275	272
償却費 *2	(15)	(15)
営業利益	260	257
個別開示項目	(25)	(33)
金融費用（純額）	(112)	(102)
持分法による投資損益	17	49
税引前利益	140	171
当期利益（損失）	(4)	114
親会社の所有者に帰属する当期利益（損失）	(17)	105
EBITDA	468	467

\*1：IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

\*2：ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

**当期利益が前期比大幅に増加**

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

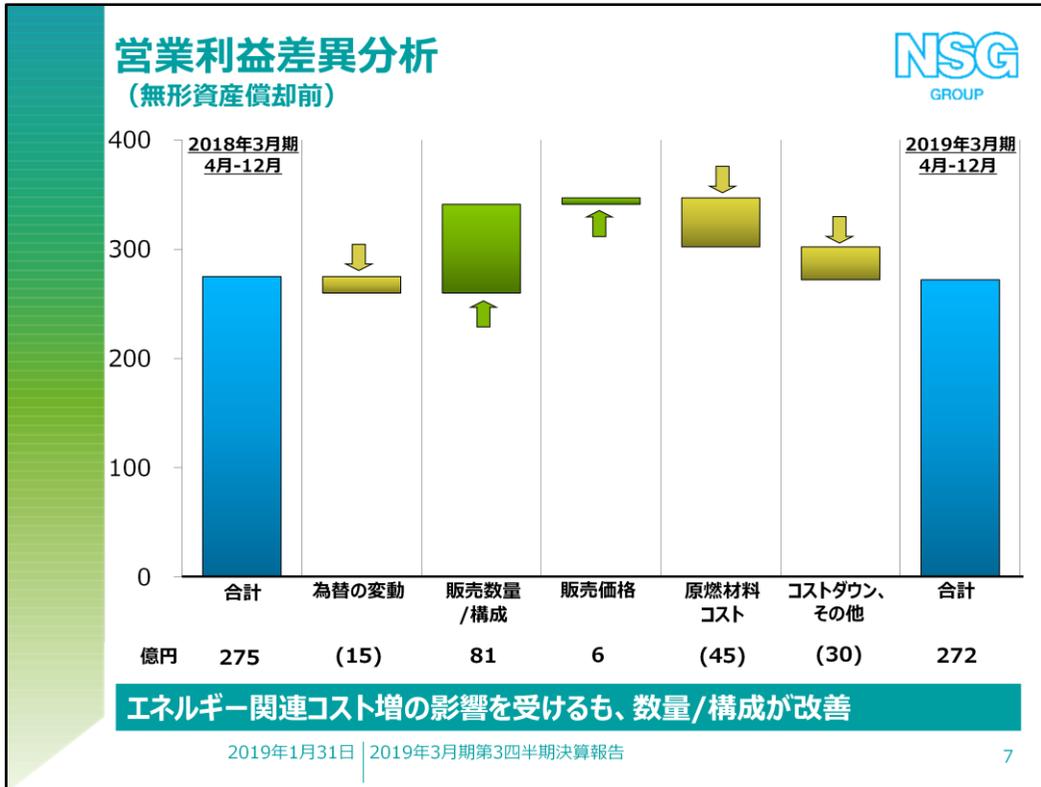
6

6ページの連結損益計算書に参ります。

左側に「前年同期の実績」、右側に「当第3四半期の実績」をお示しております。

連結損益計算書の主要な項目については、先ほどお示した通りです。

金融費用の削減、持分法による投資利益の改善、当年にて前年の一過性の税金費用が発生しなかったことなどにより、親会社の所有者に帰属する利益が大幅に増加しました。



7ページへ移ります。ここでは、無形資産償却前営業利益について、前年との差異について説明しています。

「為替の変動」は、主に南米の通貨安、特にアルゼンチン・ペソの下落によるもので、超インフレ会計の影響を含みます。

「販売数量/構成」は、ほぼ全ての事業及び地域において改善しました。

「販売価格」は、多くの市場が安定的に推移している状況を示しています。

「原燃材料コスト」は、主に燃料費上昇によるものですが、第3四半期においても欧州の天然ガス価格やアジアのオイル価格高止まりの影響を受けました。

「コストダウン、その他」は、労務費を含むコスト増や一部地域での生産不調によるコストアップに加えて、上期に行ったドイツの窯の定期修繕や前年に含まれていた一過性の収益がなくなったこと等もあり、対前年でマイナスになりました。

全体として、エネルギー関連コスト増の影響を受けるも、数量/構成の改善でカバーしました。

## 主要財務指標 (KPI)



	*1 <u>2017年12月末</u>	<u>2018年12月末</u>	*1 <u>2018年3月末</u>
ネット借入 (億円)	3,348	3,368	3,065
ネット借入/EBITDA	5.2x	5.3x	4.8x
ネット借入/純資産比率	2.3x	2.6x	2.1x
自己資本比率	17.4%	15.9%	17.1%
	<u>2018年3月期</u> <u>4月-12月期</u> *1	<u>2019年3月期</u> <u>4月-12月期</u>	*1 <u>2018年3月期</u>
営業利益率*2	6.2%	5.9%	6.3%

\*1: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

\*2: 無形資産償却前営業利益

### 年度末に向けてネット借入は改善する見込み

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

8

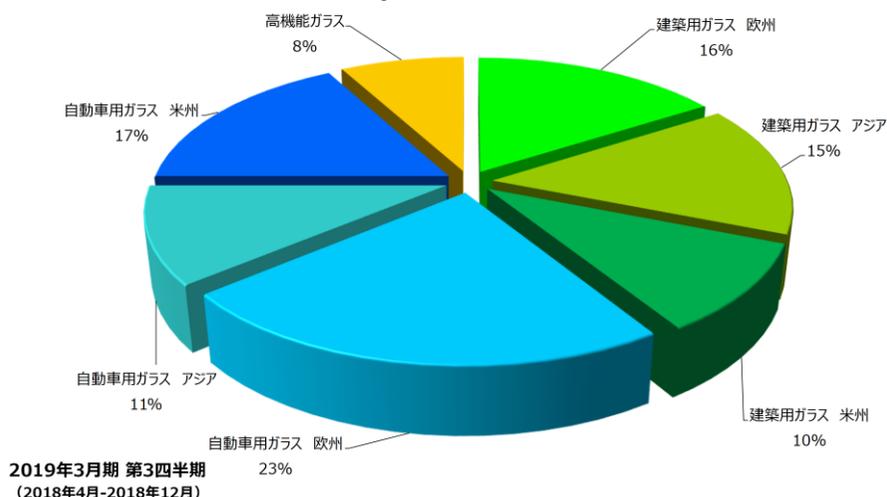
8ページは、主要財務指標の一覧になります。

左から「前年同期の実績」、「当第3四半期の実績」、「前年度末」の順にお示しております。

「ネット借入」は、運転資本の季節的な変動の影響もあり、前年同期並みの3,368億円となりました。前年と同様に、年度末に向けて改善することを見込んでおります。

## 事業別売上高

4,595億円



2019年3月期 第3四半期  
(2018年4月-2018年12月)

グローバルに事業展開

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

9

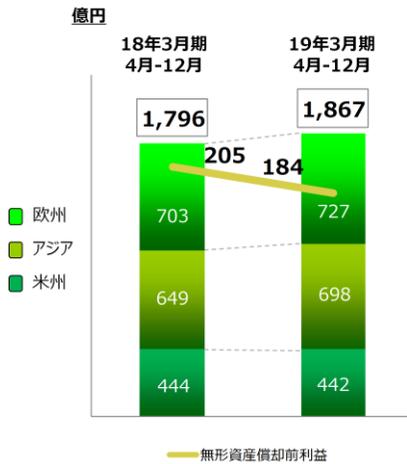
9ページへ移ります。

このスライドは、当社グループの事業セグメント毎の売上高の構成比を示しています。当社グループの売上高の構成比ですが、欧州が40%、日本を含むアジアが33%、米州が27%となっています。

【補足】

建築用ガラス: 41%、自動車用ガラス: 51%、高機能ガラス8%

## 建築用ガラス事業 2018年3月期第3四半期との比較



### 欧州（増収・減益）

- 上期に定修コストや投入コスト増加の影響を受けるも、Q3は堅調に推移

### アジア（増収・減益）

- 日本は出荷増により収益改善
- 東南アジアではソーラー用ガラスの伸長の一方で競争激化により減益

### 米州（横這い・減益）

- 北米は好調な需要とオタワ工場再稼働の効果で増収だが、製造コストが増加
- 南米の市場は好調だが、超インフレ会計の影響を受け、円ベースでは減収減益

投入コスト増やアルゼンチンにおける超インフレ会計の影響を受け減益

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

10

10ページへ移ります。これより、各事業毎の事業業績についてご説明いたします。

まず、当社グループの建築用ガラス事業の業績です。

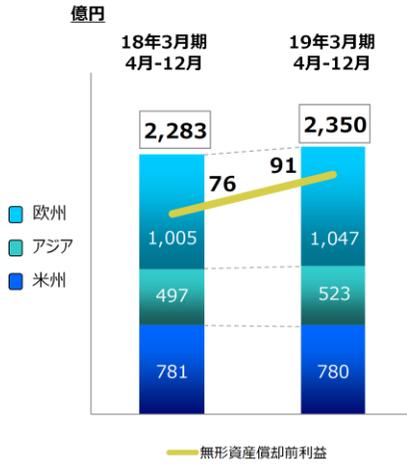
建築用ガラス事業全体では、売上高は前年同期比4%増の1,867億円になりましたが、利益は、主として投入コスト増と南米における為替影響により、前年同期比21億円マイナスの184億円になりました。

各地域の状況ですが、欧州は好調な需要に支えられ、数量、価格ともに改善し、増収となりました。一方、エネルギー・コストをはじめとする投入コストの増加や上期のドイツにおけるフロート窯の定修コストの影響を受け、利益は減少しました。

アジアですが、日本は投入コストの増加による影響を受ける一方、出荷の増加により収益が改善しました。東南アジアはソーラー用ガラスの出荷増が利益に寄与する一方で、建築用のガラスは競合他社の能力増強に伴い、厳しい競争環境となっています。

米州ですが、北米では、昨年度立ち上げたオタワ工場が今期はフルで寄与していることに加え、好調な市場の恩恵を受け、増収となりました。しかし、新製品の試作等により素板製造コストが一時的に増加したため、減益となりました。南米の市場は好調に推移しており、現地通貨では増収増益となったものの、超インフレ会計の影響もあり、日本円では減収減益になりました。

## 自動車用ガラス事業 2018年3月期第3四半期との比較



### 欧州（増収・増益）

- Q3に入って新車市場が急減速するも通期では売上、利益とも大幅改善

### アジア（増収・増益）

- 日本は上期に自然災害影響を受けるも、下期は出荷、生産ともに安定的に推移
- 補修用ガラス（AGR）は数量増により各地域で増益

### 米州（横這い・増益）

- 北米は堅調な市況で新車用売上安定。補修用ガラス（AGR）は改善
- 南米は為替影響を受けるも、ブラジルにおける数量は回復

**Q3に欧州の新車市場が急減速するも、通期ではほぼ全地域で増収増益**

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

11

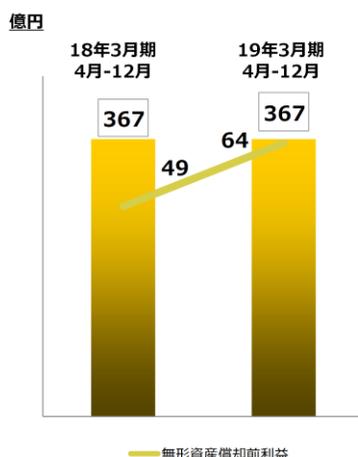
11ページは自動車用ガラス事業です。自動車用ガラス事業全体では、売上高は前年同期比3%増の2,350億円、利益は前年同期比20%増の91億円になりました。第3四半期の欧州急減速を除き、安定した市場環境を受けてほぼ全地域で増収増益となりました。

欧州は、2018年9月から適用が開始されたWLTPの導入等により域内市場が軟調となった一方、高級車の輸出市場である中国も低調となり、第3四半期は急減速しました。しかしながら上半期の改善により通期では増収増益となりました。

アジアですが、日本は上期に自然災害によって自動車業界のサプライ・チェーンが影響を受けましたが、下期に入り当社の出荷、生産ともに安定的に推移しています。補修用ガラス(AGR)は、アジア各地で出荷数量が増加しており、業績は堅調に推移しています。

米州ですが、北米では出荷が堅調に推移していることに加え、補修用ガラスの損益も改善しており、安定した業績となりました。南米では、ブラジルにおいて販売数量が回復しており、継続して業績が改善していますが、ブラジル・レアルやアルゼンチン・ペソの下落の影響を受けました。なお、超インフレ会計の影響は、自動車用ガラス事業においては軽微です。

## 高機能ガラス事業 2018年3月期第3四半期との比較



### 高機能ガラス事業（横這い・増益）

- ディスプレイは売上増とコスト改善により損益改善
- プリンター用レンズの需要は底堅く推移
- グラスコードの需要は軟化
- メタシャイン®は自動車用塗料、化粧品向けの販売が増加
- バッテリーセパレーターの需要は、日本では堅調に推移する一方、アジアでは軟化の兆し

### ディスプレイ分野を中心に利益改善が継続

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

12

12ページの高機能ガラス事業へ移ります。高機能ガラス事業全体では、売上高は前期比レベルの367億円となりましたが、堅調な各事業の状況やディスプレイ部門のコスト基盤改善を受けて利益は64億円と、31%の増益となりました。

セグメント別の状況ですが、ディスプレイは、売上の増加と前年度に実施したコスト・ベースの改善により、損益が改善しています。

プリンター用レンズの需要は堅調に推移しています。

エンジンのタイミングベルトに使用されるグラスコードの需要は、堅調ではあるものの若干軟化しています。

メタシャイン®は自動車用塗料や化粧品の分野での堅調な需要により、販売が増加しました。

バッテリーセパレーターの需要は、アジアで減速の兆しがあるものの、日本では自動車用途を中心に堅調に推移しています。

## 2019年3月期 通期業績予想の見直し



(億円)	2018年 3月期 通期実績 *1	2019年 3月期 通期業績 予想 (当初)	2019年 3月期 通期業績 予想 (最新)	差異
売上高	5,989	6,300	6,200	(100)
無形資産償却前営業利益	377	430	390	(40)
償却費 *2	(20)	(20)	(20)	
営業利益	357	410	370	(40)
個別開示項目	(13)	(70)	(60)	10
金融費用 (純額)	(146)	(130)	(130)	
持分法による投資損益	24	30	60	30
税引前利益	222	240	240	
当期利益	79	160	160	
親会社の所有者に帰属する当期利益	62	140	140	

最新見直し  
を反映

当初予想か  
ら変更なし

\*1: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

\*2: ビルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却

**営業利益は急激な市場変化を反映、最終利益は当初予想から変更なし**

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

13

それでは、13ページの「2019年3月期 通期業績予想の見直し」のスライドへ移ります。

損益計算書の様式で、左側から「前期の通期実績」、「当初の通期業績予想」、そして今回の見直しを行った「最新の通期業績予想」の順です。

通期業績予想について、売上高を100億下方修正し、6,200億円、無形資産償却前営業利益を40億円下方修正し、390億円といたしました。

ただし、前年度対比では増収・増益の計画です。

一方、個別開示項目費用、金融費用（純額）の削減や持分法による投資損益の上振れ予想に基づき、税引前利益、当期利益、親会社の所有者に帰属する当期利益については当初予想からの修正はありません。

それでは、営業利益の修正について次のスライドでもう少し詳細にご説明いたします。

## 2019年3月期 通期業績予想の見直し



### 営業利益\*の修正 <430億円 → 390億円 (△40億円)>

- 前年比では増益を維持（前年度通期：377億円）
- 欧州自動車市場環境の急激な変化、南米通貨安、エネルギー関連コスト上昇を反映
- 第4四半期業績予想想定

建築用 ガラス	英国・東南アジアで市況低迷あるも全般には安定した環境継続を想定	↓
	欧州・アジアを中心に燃料費の増加、南米の超インフレ会計影響が継続	
自動車用 ガラス	Q3の欧州新車市場でのWLTP導入、輸出減の影響を受ける。補修用ガラスの事業は好調	↓
	VA化・効率化は継続進展	
高機能 ガラス	ディスプレイ事業のリストラ効果 各事業の堅調な推移	↑

\* 無形資産償却前営業利益

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

14

スライドの14ページをご覧ください。

当社が事業を行う市場環境については、全体としては引き続き安定的に推移すると想定しております。

しかしながら、第3四半期に欧州自動車用ガラス市場において急ブレーキがかかっていること、安定してきてはいるものの南米通貨安の継続、原燃材料費を中心とするコストプッシュの継続により、営業利益の予想を下方修正しました。

事業別では、高機能ガラスの好調は継続するものの、建築用ガラス・自動車用ガラスは当初の想定に対して下振れの方向です。

建築用ガラス事業においては一部を除き総じて市場環境は好調であります。コスト増と南米における超インフレ会計の影響を受けます。

自動車用ガラス事業は、補修用ガラスは堅調であるものの、新車用は欧州における市場減速の影響を受けるとみております。

## まとめ



### 第3四半期決算

- 売上は、Q3に入り急減速した欧州自動車用ガラス市場を除き、安定的に推移した市場環境を反映し増収
- 営業利益は、エネルギー関連コスト上昇や南米の通貨安等により前期並み
- 当期利益は大幅改善

### 通期業績予想

- 欧州自動車ガラス市場の急激な変化はあるものの、他の事業・地域は比較的安定的な市場環境が継続
- 通期の売上、営業利益予想を修正するが、当期利益予想は変更せず、営業利益、当期利益とも増益を維持
- 営業利益6期連続増益の達成に向け、VA化、効率改善、コストダウンを継続実施

2019年1月31日 | 2019年3月期第3四半期決算報告

15

15ページは、「まとめ」になります。

当社グループの売上高は、欧州自動車用ガラス市場の急減速を除き、安定的に推移した市場環境を受け増収となりましたが、エネルギー関連コストの上昇や南米の通貨安などの影響を受け、営業利益は前期並みとなりました。

当期利益は、金融費用の削減や一過性要因も含む持分法損益改善、前年の一時的な税金費用がなくなったことにより大きく改善しました。

通期業績予想については、事業環境の変化を受け、売上高と営業利益の予想を下方修正しましたが、当期利益の予想は修正していません。2019年3月期については、営業利益、当期利益とも対前年で増益の計画です。

特に営業利益については6期連続増益の計画であり、その達成に向けて、VA化、効率改善、コストダウンについて継続しているものに加え、追加施策の実施も含めて、全力で取り組んでまいります。

本日の説明は以上です。ご清聴どうもありがとうございました。

## ご注意



当資料の業績見通しは、当社が現時点で入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提にもとづいており、実際の業績は見通しと異なる可能性があります。その要因の主なものとしては、主要市場の経済環境及び競争環境、製品需給、為替・金利相場、原燃料市況、法規制の変動等がありますが、これらに限定されるものではありません。

日本板硝子株式会社

## 補足資料

- 決算補足資料
  - 事業部門別・地域別売上高
  - 事業部門別・地域別償却前営業利益
  - 連結貸借対照表
  - 連結キャッシュ・フロー
  - 個別開示項目
  - 為替レート
  - アルゼンチンにおける超インフレ会計

## 事業部門別・地域別売上高

### 2018年3月期第3四半期との比較



(億円)	2018年3月期 4月-12月期*	2019年3月期 4月-12月期	増減
<b>建築用ガラス</b>	<b>1,796</b>	<b>1,867</b>	<b>71</b>
欧州	703	727	24
アジア	649	698	49
米州	444	442	(2)
<b>自動車用ガラス</b>	<b>2,283</b>	<b>2,350</b>	<b>67</b>
欧州	1,005	1,047	42
アジア	497	523	26
米州	781	780	(1)
<b>高機能ガラス</b>	<b>367</b>	<b>367</b>	<b>0</b>
欧州	56	58	2
アジア	301	297	(4)
米州	10	12	2
<b>その他</b>	<b>7</b>	<b>11</b>	<b>4</b>
<b>合計</b>	<b>4,453</b>	<b>4,595</b>	<b>142</b>

\*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。  
IFRS第15号適用前：4,494億円（調整額：△41億円）

## 事業部門別・地域別償却前営業利益<sup>\*1</sup> 2018年3月期第3四半期との比較



(億円)	2018年3月期 4月-12月期 <sup>*2</sup>	2019年3月期 4月-12月期	増減
<b>事業別</b>			
建築用ガラス	205	184	(21)
自動車用ガラス	76	91	15
高機能ガラス	49	64	15
その他	(55)	(67)	(12)
合計	275	272	(3)
<b>地域別</b>			
欧州	124	125	1
アジア	128	144	16
米州	78	70	(8)
その他	(55)	(67)	(12)
合計	275	272	(3)

\*1: 無形資産償却前営業利益

\*2: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。  
IFRS第15号適用前：274億円（調整額：+1億円）

## 連結貸借対照表

(億円)	2018年3月末*	2018年12月末	増減
<b>資産</b>	<b>7,886</b>	<b>7,521</b>	<b>(365)</b>
<b>非流動資産</b>	<b>5,308</b>	<b>5,202</b>	<b>(106)</b>
のれん・無形資産	1,697	1,632	(65)
有形固定資産	2,441	2,403	(38)
その他	1,170	1,167	(3)
<b>流動資産</b>	<b>2,578</b>	<b>2,319</b>	<b>(259)</b>
現金及び現金同等物	648	409	(239)
その他	1,930	1,910	(20)
<b>負債</b>	<b>6,449</b>	<b>6,235</b>	<b>(214)</b>
<b>流動負債</b>	<b>2,550</b>	<b>1,797</b>	<b>(753)</b>
金融負債	976	473	(503)
その他	1,574	1,324	(250)
<b>非流動負債</b>	<b>3,899</b>	<b>4,438</b>	<b>539</b>
金融負債	2,751	3,331	580
その他	1,148	1,107	(41)
<b>資本</b>	<b>1,437</b>	<b>1,286</b>	<b>(151)</b>
親会社の所有に帰属する持分	1,352	1,199	(153)
非支配持分	85	87	2
<b>負債及び資本</b>	<b>7,886</b>	<b>7,521</b>	<b>(365)</b>

\*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。

[資産] IFRS第15号適用前: 7,919億円 (調整額: △33億円)

[資本] IFRS第15号適用前: 1,428億円 (調整額: +9億円)

## 連結キャッシュ・フロー



(億円)	2018年3月期	2019年3月期
	4月-12月期*	4月-12月期
当期利益/(損失)	(4)	114
米国連邦法人税率の変更に伴う調整額	96	-
減価償却費	221	210
減損損失(戻入)	5	1
有形固定資産等売却益	(38)	-
事業閉鎖による為替差益	-	(7)
持分法による投資利益	(17)	(49)
法人所得税支払額	(46)	(44)
その他	(28)	(11)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー (運転資本の増減考慮前)</b>	<b>189</b>	<b>214</b>
運転資本の増加	(141)	(186)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>48</b>	<b>28</b>
有形固定資産の取得	(216)	(193)
資産売却収入	74	3
その他	(11)	(21)
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>(153)</b>	<b>(211)</b>
<b>フリー・キャッシュ・フロー</b>	<b>(105)</b>	<b>(183)</b>

\*: IFRS第15号「顧客との契約から生じる収益」の適用により、修正再表示を行っております。  
(フリー・キャッシュ・フローには影響はありません)

## 個別開示項目



(億円)	2018年3月期	2019年3月期
	4月-12月期	4月-12月期
有形固定資産等の減損損失戻入益	-	27
事業閉鎖による為替差益	-	7
有形固定資産等の売却益	21	-
ジョイント・ベンチャーに対する投資の売却益	15	-
保険金の受取による利益	10	-
有形固定資産等の減損損失	(5)	(28)
リストラクチャリング費用	(33)	(20)
退職給付債務－過去勤務費用	-	(14)
設備休止に係る費用	(37)	(4)
その他	4	(1)
	<u>(25)</u>	<u>(33)</u>

## 為替レート

	<u>2018年3月期</u> <u>4月-12月</u>	<u>2018年3月期</u>	<u>2019年3月期</u> <u>4月-12月期</u>
期中平均為替レート：			
円/英ポンド	146	147	146
円/米ドル	111	111	111
円/ユーロ	128	130	129
円/ブラジル・リアル	34.8	34.4	29.3
円/アルゼンチン・ペソ	6.65	6.30	-
期末為替レート：			
円/英ポンド	152	150	141
円/米ドル	113	106	111
円/ユーロ	136	132	127
円/ブラジル・リアル	33.9	32.1	28.5
円/アルゼンチン・ペソ	6.03	5.30	2.93

## アルゼンチンにおける超インフレ会計

2019年3月期第2四半期より、IAS第29号に定められる要件に基づき、アルゼンチンの子会社の財務諸表に対して実施した超インフレ会計の主な手続き

- 有形固定資産とそれに係る繰延税金の残高について、資産取得日を基準にしたインフレ係数を適用して修正
- 損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書について、2018年4月1日からインフレ係数を適用して修正
- 貨幣性項目については、インフレによる価値減少（機会損失費用）を金融費用として計上
- 損益計算書及びキャッシュ・フロー計算書の連結に際し、期末日レートをを用いて日本円に換算

超インフレ会計の適用による連結財務諸表への影響（2019年3月期第3四半期、単位：億円）

連結損益計算書	
売上高	(8)
営業利益	(4)
税引後利益	(15)
非支配者持分に帰属する利益	(6)
親会社の所有者に帰属する利益	(9)
連結貸借対照表	
有形固定資産	38
繰延税金負債	(8)
親会社の所有者に帰属する持分	17
非支配持分	13
資本合計	30

# NSG

GROUP

